

自然から教わる楽しい「生活」の授業  
～「散歩に出かけよう」の実践から～

今井康弘

1. 単元設定の理由

中学部1年生は男子2名、女子4名の計6名で構成されており、担任2名に級外1名が加わり常時3名の指導者がいる。

生徒6名のうち3名は本校小学部からの進学で、ともに6年間過ごしてきているのでお互いのことはよく知っている。しかし、それ以外の3名はそれぞれが違う学校より入学してきており、お互いのことも、また前者の3名のことも全く知らない関係にあった。

そこで、お互いの存在を早く意識し友だち関係のできるクラス作りをねらい、自然を中心とした散歩を考えた。自分たちの学校のある地域の坂道、路地、山、川等の探索を行うことや山の木々・花・景色を見て美しいと感じたり、川の水の気持ちよさ、時には冷たさを肌で感じたり、街中のおいを鼻で感じるために自分たちの足を使って、ゆっくり歩いていこうと思った。

クラスの生徒一人ひとりを見た場合に、校外へ出ると必ず落ち葉や石などを拾って宝物にする子、店の看板や建物の施工年月日に興味を示す子、また校内では移動に時間を要しても外へ出るととてもスムーズに動く子等、散歩に出ることによって校内とは違った生徒の姿が見られることがあり、自然を中心とした散歩を取り入れることにした。

2. ねらい

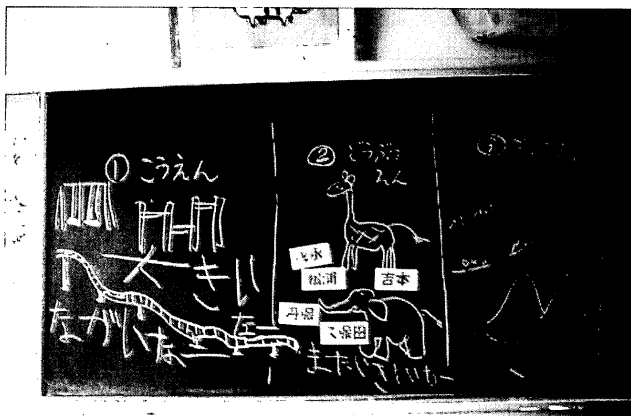
(1) 単元のねらい

- ・自然とふれあい体感しながら、自然とのつながりを深めることができる。
- ・目的地に向かう中で、友だちや教師と共にかかわり合いながら、楽しんで活動することができる。

(2) 生徒のねらいとその支援

生徒のねらい	教師の支援
・みんなと活動する中で気持ちの上でゆったりとした楽しい時間を過ごし、友だちや教師と共にかかわり合う。(全員)	・生徒の行動に対して、動き出す前の注意や、声掛けをできる限り控えるようにする。
・どこに行くか計画する段階で、自分の思いをクラスの友だちに伝えることができる。(全員)	・出かける前に生徒の希望を聞き、黒板に絵で表す。(それを見て生徒自ら、行きたいところに名前カードを貼っていく。)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地まで歩く中で、皆から遅れたり、逆に行きすぎたりする場合に自分で考えて行動することができる。また、交通安全についても考えて行動する。(A男・M子・T子・U子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険には、いつでも対応できるように、常に気配り目配りをしつつ、本人自ら気づき行動できるように、さりげない声掛けをする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を体感しながら散歩を行い、そのコースのレポーターを自分のものにできる。(A男・K男・Y子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自ら自然を楽しむことによって、生徒たちもその気になれるような雰囲気を作る。また事後学習として、活動内容を絵に描いて地図上に貼る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地でどのように行動するかを自分で考えることができる。(全員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らの動きをじっくり、余裕をもって観察しその生徒にあった対応を行う。</li> </ul>



今日はどこに行く



散歩の地図づくり

### 3. 計画

#### (1) 活動の流れ

- 金曜日 1限 [1学期] 「どこへ行くか」子どもたちの意見を聞き決定する  
 〃 2～4限 散歩に出かける  
 木曜日 5限 散歩の地図作り (事後学習)  
 [2学期以降] 次回の散歩についての話し合い

#### (2) 活動内容

- 1学期 学校の近くを散歩する・・・兼六園、浅野川、犀川など  
 2学期 川で遊ぶ、山へ登る、街中の探検 (坂道を中心に)  
 3学期 校外の“中1ゲレンデ”でのそりすべり、公園などでの自転車のり

#### 4. 活動の実際

##### (1) 自然の中で友だちと一緒に

##### ・ 5月16日 (曇り) 「つつじを見に行くための散歩」

この時期、学校の周辺にきれいなつつじが満開であることをクラスの全員が知っていた。この日の散歩の選択肢に「つつじ公園散歩」を入れたところ、全員がそこに投票し行くことに決まった。

##### ・ 8月5日 (晴れ) 「思いっきり遊んだ川遊び (夏の合宿)」

今年は長梅雨で、川遊びを7月頃から計画していたが行けずじまいであった。それで、夏休み中のクラス合宿にそれを決行した。この日は暑かったせいもあり、川に着くなり「入っていい?」と聞いたとたんざぶんと飛び込んだA男。「ぬれてもいいのかな?」と悩んでいたK男とU子は担任が入るのを見て入った。しかし、どうしてもぬれることが嫌だったY子は、大好きな石拾いをして楽しんでいた。



川あそび楽しい

##### ・ 9月5日 (晴れ) 「意外な展開になった川遊び」

2学期になり初めての散歩の日、夏休み中の川遊びが記憶にあったのか6人中4人が川遊びに投票した。

今回は『マイペットボトル』を流して遊ぶことになった。しかし、これがしっかり者のA男にとって大事件になった。しばらくは教師が上流より流していたペットボトルを受け取って遊んでいたが、それを取り損ねて下流へ流してしまった。A男はこれが我慢できず川の中を下流まで追いかけたり「流れよ変われ」と大声で叫んだりしてパニックに陥ってしまった。最終的に、担任と2人で下流まで探しに行ったが見つからず、納得できないまま学校へ戻った。A男にとっては「あきらめる」ということを身をもって体験できた散歩になった。



上まで行くぞ!

##### ・ 9月12日 (晴れ) 「体力がついた中1の面々」

学部全体でプラネタリウムを見に行くことになった。この日は散歩をかねて4kmの道のりを歩くことにしたが、折しもこの日の気温は31℃を指していて蒸し暑かった。しかし中1の皆は途中、石垣登りなどをして楽しみながら1時間半で歩き通した。後半、体の小さいM子が立ち止まりそうになったが、先に行くクラスメートを見て再び歩き出し少しだけ遅れて到着することができた。

## (2) 少しずつクラスに打ち解けていったY子

### ・ 4月15日 (晴れ) 「皆と行けなかった散歩」

クラスとして初めて散歩に出かけた日、1限目に「今日はどこへ行くか？」を話し合っ  
て学校を出ることにした。しかし、他校より入学したY子とK男は出発間際になり「皆  
と行きたくない」と言って特別教室へ逃げ込み、内側から鍵をかけてしまった。しばらく  
は他のクラスメートも待っていたが、待ちきれずに残り4人で出かけた。

特別教室へ入った2人は「散歩なんてつまらない」「クラスの皆と一緒に行かないよ」  
と主張し続けた。2人に対して担任の一人は、散歩の楽しさや友だちの良さ等を話し説得  
を続けたところ、一時間くらいたってようやく出てきた。それから皆を追ったが、会った  
のはクラスメートが帰路についた頃だった。結局その日は目的地に行かずに学校へ戻った  
のであった。

### ・ 4月25日 (晴れ) 「集団から離れて散歩する2人」

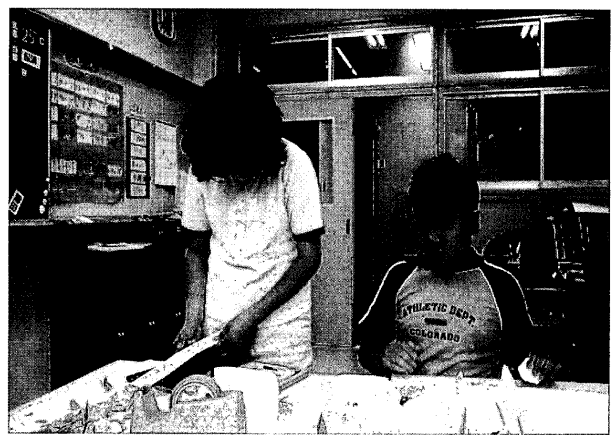
前回、クラスメートと一緒に散歩に行けなかったY子、K男のために1回目と同じコー  
スに行くことにした。前回のことを反省し、また学校生活を送る中で友だちにも慣れてき  
たのか、出発時と目的地に着くまではスムーズに歩いていた。しかし、帰路についた頃よ  
りクラスメートとは反対の岸辺を2人は歩くようになり、途中からは先に走って行ってし  
まった。だが2人とも道順が不安らしく、担任を遠いところから確認しながら学校に戻っ  
ていったのである。

### ・ 5月2日 (晴れ) 「また遅れて散歩に出る2人」

このときもまた、出発時にY子とK男は2人で特別教室へ逃げ込んでしまった。しか  
し前回の時よりも早く納得し30分くらいで出てきて、先に行った友だちを追うように走っ  
て参加したのである。その後、ほとんど集団から離れることなく散歩をし、学校に戻って  
くることができた。この日を最後に、2人は出発する時間に遅れることはなくなったので  
ある。



お〜い、どこ行くの？



みんなで地図づくり

・ 7月4日（雨） 「地図作りを提案したY子」

6月27日の散歩で犀川を一望できる高台の公園に上った。そしてその帰り道、初めて市内の周遊バスに乗った。そのことが楽しい思い出になったのか、その散歩の帰り道「先生、散歩の地図作らんけ？」と提案してきた。そこで雨が降ったこの日に作ることにした。

白い模造紙の上に紙をちぎって川を作ったり、学校やクラスメートの絵を描きそれを切り抜いて模造紙の上に貼ったりした。（写真参照）特にY子は友だちや木を描いてうれしそうに模造紙上に貼り付けていた。

## 5. まとめと今後の課題

4月の入学式で初めて顔を合わせた子どもたちと担任たち。そして、期待と不安が入り交じった中1の散歩が始まってから、はや9ヶ月が経過した。

はじめの頃は中学部で行われる散歩が、どういうものなのか子どもたちは全く知らないで、「散歩の流れ」を理解できるようになるまでゆっくりと進めていった。例えば、出かける直前に行きたいところを決める活動も初めは候補の場所を教師が提案し、その中から子どもたちが選ぶという方法をとった。そして、慣れてくるに従って子どもたちの方から行きたい場所が出てくるようになり、中には“ディズニーランド”など突飛な発言もあったが、「行きたいところ」という点では理解されてきたと思う。本文の活動例に出てきたY子は徐々に「散歩の流れ」が理解できるようになり、散歩に行くことが楽しみとなり地図作りの提案の後、「行きたいところ」をどんどん発言してくれるようになった。

散歩に行くという「学校を出て学校に戻る」ただそれだけの行動の中で、道路の中央を歩く子、一人でさっさと行ってしまおう子、逆に遅れて集団と離れてしまおう子、また川に入るときや崖に上るときなども積極的に参加する子、逆に慎重になり回避してしまおう子、それから本文中で紹介したようなハプニングを引き起こす子など、子どもたちの豊かな個性を感じることができる。

そのような中でこの単元のねらいである、「自然とのふれあいを深め、人間同士のかかわりを求める中で散歩を楽しみと思えるようになる」ために、私たち教師が子どもたちとどうかかわればいいのか考える必要があり、生徒一人ひとりの動きや気持ちを十分に読み取り理解しながらかかわっていくことの大切さを実感している。その手だてとして子どもたちをじっくり見つめること、子どもがその気になるまで待つこと、そして適切に援助することなどが考えられる。また、今までは自然とのふれあいをゆっくりと行うために、“歩くこと”を中心に行ってきた。そして中学部の「散歩の流れ」が、早く理解できるようにと繰り返しの内容が多かったように思う。そのため、散歩をする範囲も決まっていたり、内容も多少のマンネリ化傾向にあった。そこで、公共の交通機関（バス、電車）を使い、少し遠出を試みた。子どもたちは、はじめこそ緊張していたが、慣れてくるととても喜び、友だち同士のかかわりも増え、今までと違った面が見えてくるようになった。この散歩の様子を学級通信で家庭へ知らせると、それを読んで子どもたちの親からは「先生、子どもたちをいろいろな所へ連れて行って、いろいろな体験をさせてください。」という共感する声も聞かれるようになった。

そこで今後は、乗り物を使っての散歩も順次取り上げ、子どもたちにとって新しい経験を増やしていければと考えている。

資料：散歩コース（12月17日現在）

4月10日（晴れ） 兼六園花見	学校 → 兼六園（園内散策・だんご購入） → 金沢城（だんごを食べる） → 白鳥路 → 学校
15日（晴れ） 浅野川	学校 → ストア（買い物） → 浅野川（川辺散策） → 天神橋 → 学校
25日（雨） 浅野川	学校 → ストア（買い物） → 浅野川 → 東茶屋街 → 浅野川（川辺で休憩） → 天神橋 → 学校
5月2日（晴れ） 旧県庁跡の見学	学校 → 公園下 → 旧県庁跡（庁舎内見学） → 中央公園 → 金沢城 → 白鳥路 → 学校
16日（曇り） つつじ見学	学校 → 白鳥路 → NHK（見学・トイレ休憩） → 彦三緑地公園（つつじ見学） → 浅野川（川辺） → 天神橋 → 学校
30日（晴れ） デパート見学	学校 → 公園下 → 中央公園 → デパート（見学・飲み物購入・屋上で遊ぶ） → 中央公園 → 公園下 → 学校
6月13日（曇り） 七塚中央公園	学校 ----- 七塚中央公園（1時間遊ぶ） ----- 学校
27日（晴れ） 寺町緑地公園	学校 → 哲学の道 → コンビニ（買い物） → 犀川 → W坂 → 寺町緑地公園 ~~~~~ 県立美術館 → 学校
8月5日（晴れ） 浅野川川遊び	学校 → ストア（買い物） → 常盤橋 → 浅野川を上流へ（川遊び） → 常盤橋 → 学校
9月5日（晴れ） 浅野川川遊び	学校 → ストア（買い物） → 常盤橋 → 浅野川を上流へ（川遊び） → 常盤橋 → 学校
12日（晴れ） プラネタリウム	学校 → 八坂 → 嫁坂（休憩・石垣登り） → 猿丸神社（休憩） → 犀川 → 県立児童会館（プラネタリウム） ----- 学校
10月10日（晴れ） 卯辰山散策	学校 → ストア（買い物） → 常盤橋 → 旧油谷乳業跡 → 卯辰山（竹林登り） → 天神橋 → 学校
21日（雨） 電車で散歩	学校 ----- 野町 ----- 加賀一宮 → パーク獅子吼 → 白山比咩神社（うどん屋） → 加賀一宮 ----- 野町 ~~~~~ 学校

→ 徒歩      ----- スクールバス      ~~~~~ 市内バス（ふらっとバス）  
----- 電車